第 4 回「砂礫の最小･最大密度試験方法基準化委員会」議事録

日　時：平成 17 年 1 月 26 日（水）15：00～17：00
場　所：社団法人　地盤工学会　3F会議室
出　席：國生委員長，畑中副委員長，原幹事，小林幹事，稲垣委員，工藤委員，向後委員，後藤委員，佐藤（弘）委員，佐藤（信）委員，下村委員，関根委員，田邉委員，山田委員
欠　席：木幡委員，小濱委員，酒井委員，村山委員

議　事：

１．親委員会上申結果の報告
２．基準案、解説案、データシート案についての内容審議
３．その他
４．次回について

議事内容：

1. 親委員会上申結果の報告

【資料 04-4-2】　平成 16 年度　第 3 回土質規格･基準検討委員会での指摘事項
【資料 04-4-3】　適用範囲の文章案

(1)スケジュール

･前回（12/7）親委員会に上申.質問事項があるので，それを回答したうえで，次回親委員会（3/7 予定）に提出する.

(2)適用範囲について

･本試験の適用範囲である「砂礫」が工学的分類上の定義と一致するかどうかの指摘があった．また，英語タイトルと対応しているかという指摘もあり．砂の最小･最大密度試験との棲み分けを考慮して適用範囲を文章化する必要がある.
･粗粒度の定義は「土質材料（地盤材料のうち石分=0%の材料）のうち，粗粒分（0.075mm～75mm）が 50%以上」.
･砂礫の定義は「細粒分＜15%，かつ，砂分≦15%の礫質土（礫分＞砂分）」.
･工学的分類上の小分類で，本試験に適用できるものは，「礫」，「砂まじり礫」，「砂質礫」，「砂」，「礫まじり砂」，「礫質砂」.
･工学的分類上の中分類で，本試験に適用できるものは，「礫」，「砂礫」，「砂」，「礫質砂」.
･上記は「細粒分　10%以下の礫質土」，「細粒分　10%以下の砂質土」を示し，総称すると「細粒分 10%以下の粗粒土」になる.

・ASTM では，タイトルでは”soils”,適用範囲では”cohesionless,free-draining soils”.
・BS では，タイトルでは”soils”,適用範囲では.
・USBR では，タイトルでは”Cohesionless soils” .
・適用範囲は【資料 04-4-3】の修正案 6 とする.ただし，砂の最小最大密度試験との棲み分けが問題となる場合は，修正案 7 の「ただし，～」を用いる.
・タイトルは，砂礫，礫，粗粒土など考えられるが，砂との区別をはっきりさせるために「礫（gravel）」とする.

(3)その他の指摘事項と基準（案）の変更点（12/13WG結果）について

・図 1，図 4，図 5 の変更.
・モールドの精度，はかりの精度の変更.
・粒度試験と粒子破砕率についての記述の変更.

2．基準案、解説案、データシート案についての内容審議

【資料 04-4-4】 砂礫の最小密度・最大密度試験 基準（案）
【資料 04-4-5】 砂礫の最小密度・最大密度試験 解説（案）
【資料 04-4-6】 砂礫の最小密度・最大密度試験 データシート（案）

(1)基準（案）

・基準（案）図 2 は解説に載せる.
・図 5 の測定点間の比に留意して図を修正する.
・図 3 については小さいバイブレーターも使用可とする．図面の修正は行わない.
・バイブレーターの性能例を示す.
・上載圧（接地圧）の例をしめす.

(2)解説（案）

・図 2.1.25，図 2.1.26 は真の値を明記する.

(2)データシート（案）

・D60 を追加.
・「供試体上端の高さ」→「供試体上端の深さ」.
・注釈 2)スケール以外の～を削除．供試体高さ測定器の記述欄を接地圧などに替える

3．その他

・各自，解説（案）を読むこと.
・解説（案）の英訳

4. 次回について

・今後のスケジュール

3/7（月） 規格・基準検討委員会（親委員会）

・次回委員会　4/5（火） 15:00～ JGS 会館にて開催予定.

以　上